

団の仮入部から定期戦実行委員という形に変わったわけですね。だから応援団の立場からするとそれをもっと意識しているんなことを教えたりすることに気を使わないといけません。執行部の側からすると選出方法をもう少し変えるということ意識し、選ばれる一年生にも応援団に入るんじゃないかって定期戦の為の応援なんだということを徹底させていくのがいいと思います。

永田 実際僕も一年生の時にやらされてたんですけど、じゃんけんて負けたから仕方なくやってみた感じでした。一年生になった時点で「定期戦があるから実行委員を選ぶ」といきなり指導委員の方から聞かれました。定期戦って何たるかもわからないまま定期戦実行委員をやった。実際に何の説明もほとんどなかったし、意味も何にもわからずやっただけという感じなんですね。そういうところにも若干問題があるんじゃないかと思えます。

高木 定期戦の意義みたいなお話を願えませんか。

佐藤 運動部にとって定期戦は、まず小手調べ的なところがあって、春先からスタートしてこれで勝ったら阪神大会とか県大会とかいうのがありますから、いい調子で滑り出せるのです。あと運動部長からみると、定期戦とかで運動部が頑張ってるのを他の文化部の生徒に見てもらえれば、若干予算の比率が運動部の方が高いもんですから、そのための宣伝的な意味もあって、僕は活躍してくれるのはうれしいなという気持ちがあったんです。

高木 他にありませんか？

安藤 定期戦は今までほとんど勝ってきましたし、今佐藤君が言ったみたいに、運動部はいい滑り出しができると思いますけれども、あまり勝つもので県西では近年「我が部は遠慮させていただきます。」という部があるらしいんです。そう考えると県西は運動部が定期戦というものを考えているのではなくて自分の部のことだけを考えているようになってきているなという気がしますね。さっき山本光君がいていた定期戦の会場を変えたい云々のこともあるし、これらの課題を執行部が県西に働きかけて、盛り上げていかなければならないと思います。その

方法を現執行部に考えてもらったらいいんですけども。

三. 部活動について

高木 この十年間文化部の活動、運動部の活動はいろいろあったと思うんですが、まず最初に文化部の活動を金延先生の方から、運動部の活動を東原先生から言ってもらいます。このコーナーは、部の活躍ということで話を進めていきたいと思えます。

金延 別表1の「文化部・書記外局の活動の推移」を見て頂きますと、この10年間の前半部分で結構いろんな動きがあるんですね。例えば書道部がなくなったこともあるけど、漫画研究同好会ができて部になるとか、園芸飼育部に人が集まらなくなったとか、航空機研究同好会が2年間あって廃部になったり、民族学研究同好会が1年間で廃部になったりしています。この辺の動きをみると、興味関心のある人間たちが仲間を集めて何かやろうやないかという動きがあったんだろうなという気がしますね。ところが最近では、自分達の興味対象を仲間を呼んで一緒にやろうやという気持ちや雰囲気全体として無くなってきているという感じがします。あっちこっちに顔だしてやりたいことをやってみようというようなエネルギーが文化部の方にはあったんだけど、それが現在ではないという感想をもちますね。それから、コンクール等のある文化部の成績で整理しながら感じたのは、本校はやはり将棋が強いなと感じました。将棋がずっと良い成績をとってるんですね。文化部にとって非常に恥ずかしいことですけど、文化部や書記外局の活動の推移をみてましても、コンクールの成績をみてましても、残念ながら文化部というのは顧問に大きく影響されるなという感じがします。書道部が廃部になったのもそれまでの顧問の先生との関係が大きいようすだし、漫画研究同好会がずっと続いているのも顧問になられた建先生の存在も大きかったと思います。コンクールの成績でもそうです。将棋は指導なされる先生がこの10年間変わらずおられるという事が大きいと思いますね。顧問の影響が大きいということが残念だなあと

いう気がする一方、是非論や教師側の諸問題をあえて度外視して言うと、顧問がもう少し手を入れると、ぐっとよくなる素地があるのになあという気もします。

高木 では、運動部をお願いします。

東原 別表2の「運動部の活動成績」を見てみますと、弓道部がコンスタントに、それも女子がいい成績をおさめていますね。最近の傾向としてヨット同好会が出てきています。それから水泳や陸上などのような個人種目が時々顔をだしてきているということですね。ここ10年間の感じとしてはいい時と悪い時がありますけれども、ほぼ同じような活動状況ではないかなと思います。たまたまいい選手が入ってきた時に伸びているというような印象を受けます。

水野 ちょっと定期戦の時の文化部のことなんですけど、定期戦にはコーラス部・吹奏楽部・放送部が関係していますが、もうちょっと頑張ってもらいたいという気持ちがありますね。県西の放送部はなかなか優秀なんです。僕らの年の定期戦では運動部は勝ったけれど文化部で負けたなと感じました。

高木 それでは、引き続きお願いいたします。

山本 自治会の仕事をやっていて、部活一生懸命やってたかと聞かれても無理ですよ。僕は応援団でしたが、クラブに一生懸命になると逆に自分の下の執行委員につつかれますし、信頼を失いますからね。だから、文化部長として文化部はどうだったか、運動部長として運動部はどうだったかということは言えても、自分のクラブのことはなかなか言えないんじゃないかなあと思います。

高木 ということで、運動部長さん、文化部長さんどうですか？

伊塚 今でも執行部の仕事として年度末に予算交渉をすると思うんですけど、あれで感じたことを話します。運動部は法外な予算を請求しやすいんですよ。「俺らはこれだけの成績を残した。だからこれだけもらっても当然だ」と。これに反して文化部は「これだけやった」というのが残りにくいですよ。吹奏楽部等だったらまだしも、展示系のようなクラブは特に成績を残しにくいですよ。だから交渉が

消極的になってしまうので、お金の配分にギャップができてしまうのは矛盾してるなと思いました。もっと運動部の人も文化部の人達もお互い何をやってるかという相互理解が深まれば、予算交渉がもう少しうまくいくんじゃないかと思いました。

安藤 確かにそうだと思います。例えば地学研究部が化石を掘り当てたといっって新聞に載るわけでもないしね。一体何をしてるんだ、それで何の金がいるんだ、というようになってくるんですよ。

平井 予算のことをいいますと、僕の知り合いは、「運動部は勝ったらこれだけの成績残してるからといって予算とっていくけれども、弱い時には勝っていないから予算はいらないだろうとは言えないから、痛いものがある」と言っていました。予算をとるだけとった後は減らせないし、しかも成績が悪いのに予算交渉の時には顧問の先生のお力を借りて予算をもっていきますから、このような部は文化部全体の公認の敵となっているんです。そういう状況が予算交渉に関してはあります。

高木 金延先生、東原先生、10年間で文化部でいうと非常に地味なクラブとか、運動部でも非常に地道に堅実に活動しているクラブはありませんでしょうか？

金延 文化部でいえば、コンクール等がなくて、なかなか評価されにくいけれどもまあ毎年よくやってるのはギター研究部だと思います。ギター研究部はすごい人数で、ほとんど生徒だけでやっている部分があって、よくやってると思う。執行部の土台を支えているようなところもあるしね。

それから予算のことでいえば、文化部は最低保障は絶対してやらないとだめだと思います。研究発表したくてもお金がなかったらできないからね。しかし、運動部と文化部の予算の比率は55%対45%になっているけど、実際の文化部のお金の使い方は、運動部が「もっとこっちにまわせ」と言われても仕方がないような使い方をしてる部分もあるしね。文化部でお金を与えてやらんと活動出来ないから与えるけれども、活動ができないからお金が余るし、どっちが先かということですよ。じゃあ余るんだったら運動部の方に廻してやったらいいのとなるん

だけど、なかなか難しいね。個人的には55%対45%というところで保って何とか文化部を育てることが大事だと思いますけどね。

高木 東原先生はいかがですか？

東原 陸上部は人数が多いし練習場所が狭いので、校外にはじきだされたりするけど頑張っているのではないかと思います。他には最近変わったところで、山岳部というと男子の部ですが、本年度から女子部員が入ってきました。

高木 東原先生、新しい体育館が竣工して新しくトレーニング施設ができましたし、本校の部活動を支えている一つのパワーとして、校内の指導者のもとより、OBの指導者の活躍があるんじゃないかと思えますね。運動部でいいますと今も幾つかのクラブOBに来て頂いてますし、文化部の方でもそうだと思うんですが、その辺の話を聞かせて頂けませんか？

東原 新しい体育館ができ、トレーニングルームが作られました。そこで、自治会の運動部の予備費等で基本的な体裁は整えました。他の学校の話聞いておりますと、最初は物珍しいけど数ヶ月後には眼中にない。ところが、本校はいざ蓋を開けてみますと、非常によく使っております。各運動部とも朝から部活が終わったあともさらに昼休みもよく利用していると思います。

佐藤 外部のコーチの話ですけど、バスケット部や剣道部など技術がいる関係のクラブでは、OBの方にきて頂いて技術的な指導をして頂いているみたいですよ。OBの方も熱心で、朝から来て下さる方もおられるようです。それから各部は自治会から出る予算だけではやっていけない面があるので、OB会をお願いして出して頂いたりしています。そういう面でOBの方に非常にお世話になっていると思えます。

高木 東原先生、運動部でOBにコーチをお願いしている部にどんな部がありますか。

東原 バスケット部の男女、山岳部、剣道部です。それ以外でも随意来られてるクラブもありますね。例えば軟式テニス部や水泳部や陸上部などでも時々OBがこられますね。文化部はどうですか？

金延 文化部では、邦楽部と華道部、茶道部、吹奏楽部ですね。特に吹奏楽部などはOBの組織がしっかりしていて、吹奏楽部とOBの関係はかなり密接なんじゃないでしょうか。吹奏楽部は部の発展にOBが大きく寄与している代表的なクラブだと思いますね。

高木 みなさんはご存じでないかもしれませんが、最近部活動のことで本校には「部活動後援会」というのが出来ました。大仁先生が尽力されましたのでそのことと部活のまとめをお願いします。

大仁 「部活動後援会」は昭和61年度に設立しました。母体は育友会と同窓会で、今のところ両方から30万円づつで合計で60万円出してもらっています。今の財源はこの60万円と、去年演劇部が全国大会に出た時の募金の残金の100万余りです。後援会の目的の一つは県大会でベスト8以上になった場合さらに県代表として近畿大会・全国大会に出場した場合にバックアップする激励金と、もう一つは援助金で器材などの運送費や自治会費で出せないような交通費、その他トレーニング器具など全クラブ共通に使用する物で多額の費用がかかる物に対して援助金を出しています。

この10年間で変わったこととして、昭和57年に必修クラブが導入されたこと、それから文化部は発表の場や機会が大事なのですが、そういう意味からいうと講堂がなくなったことが大きいですね。講堂は単に公演系だけでなく展示系にとっても大切で、今でも写真部と美術部がミニ展示を会議室でやっていますし、ミニ文化祭のような新入生歓迎会を精道小学校を借りてやったこともあります。

東原 是非言っておきたいのは、体育館の建替えがありましたね。その間に各方面にいろんな意味でご協力頂いた。それから本館建替えの時にも、テニスコートの件で、学校外の人たちにその活動場所の援助を頂いたということがあるんです。県立という学校はOBをはじめ地域の皆さんの協力や援助がスムーズで、この間運動部は、活動を停帯することなく続けられたということをぜひこの10年間の出来事として入れておいてほしいなと思います。

佐藤 運動部系ですが、ヨット同好会が近年伸び、

初年度は特に高須さんが国体に出場したということ。それから、山岳部がよく執行部の手伝いをやってくれているということを伝えておきたいと思います。

水野 執行に関しては、吹奏楽部や金延先生もおっしゃいましたようにギター研究部などがありますね。このギター研究部は執行の方もかなり手伝ってもらっています。

四. 自治会活動全般について

高木 最後に芦高生と自治会活動についてというところで、今日の座談会をしめくくってもらいたいと思います。

安藤 記念祭の話とかしますと、皆目を見張るといふか驚きますね。すぐわかる特徴といえば、制服がないということで羨ましがられる1つの要因になっています。こういう話をしたら気持ちがいいものです。

山本健 今、私服のことを言われたのではと思いついたのですが、本館を建て替えることによって上履きになりましたね。服装が自由なのに、どうして上履きを強制するのか、結果を聞いた時はあれっと思いました。やはり、別に上履きにしないで掃除をきれいにすればいいし、皆が同じ上履きをはけると、芦高も違って来たのかなあという印象を受けました。

安藤 あれは児玉さんの代に本館が建て、ある日の学校集会である先生が「上履きにします」と一言いわれました。でも僕らは全然そういう話を聞いていなかったで、非常に激怒して署名運動をしたり、代議委員会にかけたりしました。当然代議委員会では皆上履きをはきたくないから、止めようということになったのですが、結局強引に学校に押し込まれました。

高木 上履き問題、それと自治と自由。例えば、芦高の自治会活動で意識したり、あるいは卒業してから芦高は良かったなと思うところ、上履き以外で何かないですか。

山下 私が一番面白いというか、変わってるなと

思ったのは、クラスごとに遠足の目的地を決めて行ったことです。予算の中でクラスごとに好きな所で自由にできる独特のシステムが他の学校にはないものだと思います。

高木 学校行事と自治会活動そして自治の精神がジャストミートした行事ですね。他にありませんか。

灘井 やはり感じるのは、やる気とパワーがあれば、この学校では何でも出来る可能性があるということです。他の学校にはない雰囲気や環境があるような気がします。

佐藤 学期末に他の学校でも球技大会をやっている所が多いのですが、大体3日ぐらいで、県芦みたいに5日から6日もする所はありません。また、種目が体育の授業でやっている競技を選んでいるので、生徒にしても迫力があっていいと思います。

高木 今、学校の行事と自治会行事がうまくあっているという話でした。他にありませんか。

山本健 自主性で言えば、僕が目を見張るなど思うことは授業前後の挨拶です。最近では新しい先生が日番に礼をさせたりしますが、基本的には生徒が自分で立って礼をして座るといふのが芦高の伝統になってますね。僕はそれはとてもいいと思います。挨拶というのは自分から進んで気持ち良くするものだと思うし、残して置いてほしい習慣です。

高木 芦高らしいという所が今出ていますが、他にありませんか。

大仁 最後に「自由・自治・創造」ということを在学中に嫌というほど聞いて、考えて、なんとなく解ってと云う所があると思うけど、そのへんの話をして下さい。芦高の卒業生は自由は強制されるよりはずっと厳しく、しんどいことだとか言うでしょう。

永田 僕の知っている人で、尼崎で高校の教師をやっている人や、同じようなバンド関係の人や、僕らの音楽を聞きに来てくれる現在の高校生などから、学校への不満ばかり聞かされるのです。自分の経験談を話してあげると、多くの方は「県芦はいい学校ね」とか羨ましがられます。しかし、知り合いの先生に県芦の校訓の自由・自治・創造の話したら、一番最初に「厳しい学校だね」と言われた事が今でも心に残っています。実際、自由というのとは